

自分の国を誇りに思えるように

国府津中学校 三年 相原 しいな

外国人差別。今では誰もが一度は耳にしたことがある言葉だ。私はこの言葉を聞いて、なんで外国人だからと差別をするのだろうかいつも思う。そう思って調べてみると外国人の観光客に対して言語が違い接客がめんどうくさいから、マナーが悪いからなどが主な原因だと書かれてあった。確かに今まで電車で外国人が大声で話しているところを見たことがないわけではない。でも冷静に考えてみるとそんなの当たり前ではないだろうか。生まれも育ちも違い、一度や二度旅行で日本に訪れただけで日本の常識をすべて理解できるわけには無いし、日本語も完璧に話せるようになるわけじゃない。日本人が逆の立場になっても同じことだと思う。

私はこの意見とは反対に外国人観光客を見ると嬉しくなる。いつもそう実感できるのは夏休みや冬休みに帰省するときである。母の実家が関西にあるためいつも新幹線を利用する。そんなとき駅のホームで新幹線が通る度カメラを構えていたり、すごいすごいとも言うように興奮気味に話していたりする外国人を見る。それを見ると私はすごく嬉しくなり、それと同時に日本を誇りに思うことができる。日本にとっては新幹線があるのは当たり前のことだが外国人にとっては新幹線一本でも別世界のように感じられるのだ。それだけではない。前にホームで外国人からどこに座ればいいかと英語で聞かれたことがあった。なれない英語で自分が知っている単語でどう伝えれば良いかと頭をフル回転させながら精一杯伝えた。それから私はめんどうくさいなど一切思わずもつと英語が話せるようになった。いとやる気になった。他にも外国人と日本人が楽しそうに英語を話しているのを見ると私もあんな風に話せるようになりたいと感じる。

二〇二〇年東京オリンピックではコロナ禍でも外国人を積極的に受け入れ、日本らしいおもてなしを実施するなどたくさん取り組みが行われた。こんな風に観光客を迎え入れようとする取り組みが日本全体に広がればいいのだが、それに反対する人がまだまだいるのが現状だ。

更に深刻なのは、すでに居住している外国人への差別だ。代表的な例としては職場や学校で嫌がらせを受けたり、外国人だというだけでアパートの入居を断られたり、賃金が安かったり。

なぜそのような差別が起きてしまうのだろうか。入居を拒否する原因は収入が不安定だと見られたり、入居してから住人同士のトラブルが多発したりするからという理由が多か

った。その理由に共通するのはすべて偏見だ。外国人というだけで勝手に悪印象づけられ、それが差別に繋がっているのだ。

ではどうすればもっと差別が減るのだろうか。私はお互いに歩み寄り、理解することが重要だと思う。言語も習慣も常識もマナーもコミュニケーションの取り方も違う。共通点を見つける方が難しいようにも感じる。たとえ日本人でも異なることがあり、毎日一緒にいる人でさえ分かり合えなくてぶつかり合うことがあるくらいだ。だから違う国同士の人が認め合うことなどできないと思う。認め合うことまではできなくても相手の意見を聞き、歩み寄り一人一人が少しでも気遣うことをすれば、我慢しなればいけないことも出てくるが、お互いを尊重し合える部分も生まれる。

次に私達ができることはなんだろうか。ただ理解できたとしても理解するだけではなにも始まらない。例えば、友達と喧嘩しそうになったとき、自分の思っていることをただぶつけるのではなく、相手の意見も聞くのだ。そうすることで自然とお互いが歩み寄ることができている。最初から差別をなくすなどと難しいことから考えず、自分達にできることからすれば差別のない世界へと繋がっていくと思う。

これから日本の魅力を世界に伝えていくためにも外国人差別はなくすべきだ。でもそれは日本だけではない。それぞれの国が偏見や差別をなくし、自分の国に誇りを持つことができれば色々な国が魅力を伝え合い、今よりもっと交流できると思う。それだけではなく人種差別や障がい者差別を無くすことにもつながる。遠い国の話で関係ないと思っていた黒人差別などはもう他人事ではないのだ。まずは自分の身の回りの差別を変えてゆく。それがスタートになる。すぐに実現できることではないが多様性社会である今、国境を越えてつながることができたら、もっと明るい未来が待っていると思う。明るい未来を作るためにも今自分ができていることを一つ一つ実現に繋げていきたい。